令和４年度　亀田東児童館事業実施報告書

１ 実施した事業　　２ 自己評価　　３ 課題と対応

１　健全な遊びを通した児童の集団及び個別指導

①　つくってみよう！（創作活動室）

４月「おみくじ」５月「幼児/まっくら〇〇さがし・小学生/あらふしぎ！マジックカード」６月「まわれまわれ！ソーマトロープ」７月「くるくるレインボー」８月「おばけ射的」９月「オリジナルクリアケース」10月「てっぺん目指せ！上り人形」11月「ミノムシけん玉」12月「まつぼっくりクリスマスツリー」１月「逆さ万華鏡」２月「オニの福笑い」３月「ストローとんぼ」

（自己評価）

今年度も昨年度と同様毎月１つずつ工作を準備し、来館時にいつでも自由に製作が楽しめるよう簡単な工作を常時提供した。創作活動室に全ての材料を準備し、作りたい人が作りたい時に製作出来るように環境を整えた。子ども達それぞれが作り方を見て、読んで、理解し、作って遊ぶことを楽しんでもらえるよう働きかけた。昨年からのこのスタイルはすっかり定着し、先に製作した子が他の子に作り方や遊び方を教えてあげる等、友達同士や異年齢同士で教え合う姿も多く見られた。

今後も子ども達が楽しんでいる様子をヒントに、発想を広げて楽しめる工作を提供していきたいと思う。

（課題と対応）

数に限りがあるため、月替わりに遊びに来るとまず工作をする姿が見られる。また遊戯室の待ち時間等、短時間でできる工作は遊びのメリハリにもつながっているようだ。男女年齢関係なく興味を示しそうな内容の提供と、「作る」だけでなく「読む力」「理解する力」「友達に説明する力」等、様々なことが身に着くことも目的としているので、子ども達の成長の一助となる創作経験ができるよう研鑽を積んでいきたいと思う。

②　なっちゃんダンス（遊戯室）

(4/2・5/8・6/5・7/10・8/28・9/11・10/9・11/13・12/18・1/8・2/12・3/12)

昨年大好評だったなっちゃんダンスは、今年度より原則毎月第２日曜日午前に開催することとし、毎月なっちゃんこと下田奈津美先生の抜群のダンスパフォーマンスとご指導を求めて多くの参加者から申し込みがある。コロナの影響で参加数に若干の波はあったが、「毎月第２日曜はなっちゃんダンスの日」という定着にもつながっているようだ。月１回ではあるが、子ども達の集中力や基礎体力の向上の他、自己肯定感が養われ、他を思いやる心や協調性等が育まれる期待がある。親子で参加しているケースも多く、家族で「運動不足解消！」等と言いながら楽しんでいる姿も微笑ましい。

また、12月のクリスマス会は「なっちゃんダンス de クリスマス」と題して、クリスマスソングを下田先生オリジナルの振付で楽しく踊るという会を開催。ダンスのみなら

ず、先生の軽妙なトークにも惹きつけられる参加者が多く、終始笑顔の絶えないクリスマス会となった。また、サンタクロース役とトナカイ役にコミュニティー協議会の方々にも参加していただき、今年度初めて児童館の様子を見てもらえたことも良かったのではないかと思う。ダンスの参加者からは継続希望の声は多く、下田先生からも了解を得られたので、来年度も引き続き月１回の開催が決定している。

③夏休みシアター（遊戯室）

（8/19「学校の怪談２」）

（自己評価）

今年度のシアターは夏休みに行った。幼児から小学生に加えて、隣接するひまわりクラブ第一の子どもたちも多く参加し、みんなで鑑賞を楽しんだ。‘96 年の作品で、近年の作品に比べて不気味さも怖さもリアルさもないが、参加した子ども達は皆食い入るように観ながら一喜一憂していた。最後はほっこりする終わり方で、安堵の表情を浮かべている子も多かった。友達同士で映画館さながらな体験ができるのは夏休みならではであり、楽しい時間を共有できていたのではないかと思う。

また、シアターの日とは別に、ＷＢＣ、高校野球、高校サッカー、アルビレックス新潟の試合のテレビ中継がある日には、子ども達からの要望もあり、鑑賞室のテレビで観戦を行った。この日の為にアルビレックスのユニフォームを着てきたり、同タオルやフラグ持参で応援する様子はとても微笑ましかった。また、異年齢同士で盛り上がりながら、手に汗握って応援している姿は印象的だった。これもまた家で観ているのとは違う楽しさであり、児童館ならではの一体感を味わっていたことと思う。3 月のＷＢＣ中継では来館中の大人も子どもも夢中で観戦し、主力選手への憧れを抱き、遊戯室ではサッカーから野球にシフトしていた姿も微笑ましかった。

（課題と対応）

今後も子ども達の興味関心をリサーチしながら、子ども達の楽しみの１つとなれば良いと考えている。長期休み以外でも利用児童、親子、ひまわりクラブと相談し、テレビとスクリーンをそれぞれ活用しながら臨機応変に行うようにしていきたい。

④　アトリエじどうかん（創作活動室）

（4/4・5/2・6/6・7/4・8/1・9/5・10/3・11/7・12/5・1/16・2/6・3/6）

（自己評価）

主にひまわりクラブ第一の子ども達の参加が目立った。初めて「水性色鉛筆」に触れ、鉛筆なのに水を付けて描くと絵の具のように色が広がる様子に感動していた。水性色鉛筆の他にも水で薄めたコーヒーや白い修正ペン等も使い、普段とは違うぬり絵を毎回楽しみにしている子ども達も多かった。同じ絵でも子ども達の色使いで雰囲気がガラリと変わり、個性的な作品が多く完成していた。また、長期休みや早下校の日には、普段は下校時間が間に合わず、なかなか参加出来ない高学年の女子が参加し、水性色鉛筆の魅力に惹かれていた。ボランティアで指導してくださっている中井瑞貴先生には季節等をテーマにしたオリジナルのイラストを提供いただてぬり絵をしている他、ぬり絵コンクールや年賀状コンテスト等の審査も務めていただいている。

（課題と対応）

スタート時間までに来館する小学生が決して多いとは言えないので、参加のほとんどはひまわりクラブ第一の子ども達である。ひまわりクラブの子ども達の多くが毎月楽しみにしており、時間ギリギリまで集中して丁寧に色を塗っている。今後も子ども達の反応を見ながら、中井先生と話し合い、小学生や幼児親子らの興味を引くようなテーマ等を検討し充実させていきたい。また、高学年や幼児も参加しやすく興味を持ってもらえるように、長期休み等に普段のぬり絵とは異なる特別版として中井先生協力のもと、水性色鉛筆やアクリル絵の具、亀田縞などを使用した製作イベントを企画していきたい。

また、中井先生より著作権についてのお話しがあり、アニメやマンガのイラストを使用する場合の注意点（どこから引用したか記入）をいただいた。年賀状コンクールでは予め参加者にその旨を伝え、著作権を知ってもらう機会となった。

⑤　サッカー教室・サッカー大会（遊戯室）

（4～5月コロナにより中止・6/1・6/15・7/6・7/20・8/3・8/17・9/7・9/21・10/5・10/19・11/2・11/16・12/7・12/21・1/18・2/1・2/15・3/1・3/15　）

(自己評価)

地域のサッカークラブの監督を招いて、毎月第１・３水曜日の 15 時半～1 時間開催しているサッカー教室。夏まではこれまで通り小学生全学年参加可としていた。しかし、子ども達の中には一般のサッカークラブに入っている子どもが多くおり、身体の大きさや体力、経験や実力の差が広がっていったことで、児童館で気軽にサッカーを楽しみたい、とりわけ低学年の子ども達が置き去りにされる傾向も見て取れた。そのため監督と話し合い、8 月よりサッカー教室は小学１～４年生参加に改めた。それによって低学年の子ども達も委縮せず積極的なプレーに励む姿も見られるようになった。

昨年度まで年に 2 回開催していたサッカー大会は、今年度から年度末最後のサッカー教室時に行うこととし、併せて 4 年生はこのサッカー大会がサッカー教室の卒業とした。大会の表彰式後にサッカー教室卒業のセレモニーとして卒業証書を監督から授与され、また卒業する子ども達から監督への感謝状を贈ってもらった。

参加する子ども達の顔ぶれが固定されたことにより子ども達の成長も様々に見て取れたが、幅広い年齢層の子ども達が満遍なく楽しめるものであってほしいので、今後も監督と相談しながら展開していきたいと思う。サッカー教室での経験は普段の遊びにも活かされており、上学年が下学年に対してルールの説明やプレーのコツ等を教えている姿が見られるようになった。白熱しすぎる時もあるが、そういった際にも子ども同士で円満にプレーするためにはどうしたらいいか話し合っている様子もある。サッカー教室は普段の遊びの中でも大切なものを残してくれていると感じる。技術の向上だけでなく、心の成長や社会性を身に付ける場として、今後も男女問わず多くの子ども達に参加してほしいと考えている。

(課題と対応)

児童館で楽しむサッカーについて監督、職員間で話し合い、サッカー教室及び児童館でのサッカー遊びについてルールを決めた。その内容は遊戯室に掲示し、サッカー教室でも参加した子ども達に説明し配布した。ルールに縛るのではなく、フェアプレーを心掛け、あくまで楽しむスポーツとして捉えてもらえるようにした。

⑥　その他各種イベント

・アニバーサリーまつり（4/17→コロナにより中止）・ひよこ広場の運動会(5/25)
・ドッジボールで遊ぼう（6/19）・ベビーマッサージ(6/28)・七夕お楽しみ会（7/3）
・ひよこ七夕会(6/29)・おしえて！ゆたぴー(7/19)・ＧＯＧＯスタディー（7/25・26）
・ひまわりクラブ合同ヤクルトおなか元気教室（7/29）　・夏休みお楽しみ会（8/5）
・シアター（8/19）・こども防犯講習会(8/8)　・親子であそぼ！（9/17）
・おひるねアート(9/22・12/5)・サイズアウト交換会(10/2)
・親子リトミック(10/7)　・音楽会（11/27）・ハロウィンパーティー（10/22）
・人形劇(11/8)　・メリクリベビーヨガ(12/16)
・ひよこクリスマスコンサート(12/21→駐車場積雪のため中止)
・なっちゃんダンスDeクリスマス（12/18）　・卓球大会（12/27）
・新春かるた大会（1/15）・おやこ運動あそび(1/31)　・ひよこ豆まき会(2/1)
・Peek-a-booおひなさまコンサート(3/1)　・足育講座（3/7）・サッカー大会(3/15)
・たのしいもぐもぐタイムのために（3/17）・卒業・卒園・進級おたのしみ会(3/21)
・囲碁ランド（毎月２回）　・卓球ランド（毎月２回）　・おはなしの日（毎月１回）
・ぬりえコンクール（夏休み中）・年賀状コンテスト（冬休み中）

（自己評価）

「おひるねアート(9/22・12/5)」「サイズアウト交換会(10/2)」について

利用者からの要望や提案から開催が実現した「おひるねアート(9/22・12/5)」「サイズアウト交換会(10/2)」はいずれも大好評で、とりわけおひるねアートは予約の電話が鳴り止まず、開始１～２時間で定員が埋まってしまう程だった。講師の吉村あゆみさんがご自身のSNSで紹介してくださったことでより児童館周知につながったことと思う。人気講師ということもあり、設えていただいた背景デザインには母親らから歓声が上がる程で、衣装を持参して撮影に臨む親子が多かった。

一方サイズアウト交換会は提案してくださった利用者自らがボランティアを買って出てくれたことで、手探りだった会の進行までの流れをスムーズに行うことができた。交換会に参加した利用者からも沢山の感謝の言葉が寄せられた。乳幼児の衣服は痛みがないうちにサイズアウトしてしまうため、その都度購入する負担が常にあることから、お財布にも有難くSDGsにもつながるとの声が多く聞かれた。

（課題と対応）

第１回目のおひるねアートの申込みが当日午前に殺到し、BP講座参加者や常連の利用者の多くが会に参加出来なかった。すぐに再度開催の希望が多数寄せられたため、急遽12月に開催。吉村さんにはSNS非公開をお願いし、前回申込みできなかった利用者対象としたことで、新たに多くの利用者に参加してもらうことができた。併せて、定期開催を望む声も多くあった為、次年度は３回の開催を予定している。そのうち第１回目は４月下旬としたことで、年度替わりで来館が減少気味になることへの解消に繋がればと思う。

⑦　移動児童館

(6/27　7/28　8/2　8/16　8/18　10/11×2　11/28)

（自己評価）

新型コロナウィルスの対策を取りながら、カプラや音楽遊び、集団遊び様々な遊びを提供することが出来た。今年度は予め各ひまわりクラブへ移動児童館希望の有無、日時、内容をリサーチし、コロナ禍であったため自粛するひまわりクラブがあった他、感染拡大により急遽中止となるケースも数件あったが、次年度の日程調整を希望する問い合わせもあるなど、移動児童館が必要とされていることを強く感じた。春の異動に伴い担当職員も変わったため、アプローチの仕方の違いなどから子ども達や支援員からも「これまでとは違った遊び方があって楽しかった」「可能性が広がった」等の声を多くいただいた。来年度も早期事前リサーチを行い、「江南区内全ひまわりクラブで移動児童館を実施する」という施設目標を達成したいと考えている。

（課題と対応）

猛暑や豪雨等、天気に左右され大量のカプラ運搬に苦慮したため、その日の条件によってはプラン変更が速やかにできるよう集団遊びのプラン、引き出しを多く持てるよう日頃から研鑽を積む。

2　中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

（自己評価）

児童館を小さい頃から利用してくれている現高校生が、早下校日や休日に顔を出してくれる。職員と会話を楽しんだり、小学生の遊び相手をしてくれたり、祭り等のイベントでボランティアとして積極的に手伝ってくれたりと、児童館と共に育ってくれているように思うと共に、児童館が学校や家庭とは違う居場所となっているように感じる。児童館を利用する目的は様々であるが、子ども達や職員との関わりの中で、人間関係や精神面、人間性など様々な面で成長を垣間見ることが出来ている。

（課題と対応）

勉強、部活、習い事等で忙しい日々を送っているため、限られた時間の中で来館してくれた時には有意義に過ごせるよう、遊戯室利用への配慮やいつでも話し相手になれるよう職員がゆとりを持って接していく。

①　　レベルアップスポーツタイム（中学生）

（自己評価）

毎週日曜日午後5時～「レベルアップスポーツタイム」を実施している。コロナ禍で部活動の制限があるなど、思う存分体を動かせる場がない。特に卓球部男子らは卓球台が無料で使える施設が近くにないため、練習場所を求めて児童館に来てくれている。冬場は発散させる場を求めているのが見受けられ、卓球部男子がほぼ毎週参加しており、1時間みっちりと集中して練習出来ることに魅力を感じているようである。

（課題と対応）

主に卓球部男子、野球部男子数名が「レベルアップスポーツタイム」利用のため日曜

の夕方に来館することが増えたが、参加メンバーはかなり固定化されている。男女関係なく多くの子ども達に利用してもらえるよう中学生へのPRを強化していきたい。

3　子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

①　こども会議（創作活動室）

（毎月第2土曜日9時15分～）

（自己評価）

4年生2名、5年生4名、6年生6名の計12名で一年間活動を行った。皆とても意欲的で、今年も季節イベントや祭り等で大活躍だった。月に1～2回程度の顔を合わせながら、学年・性別関係なく皆で協力し合いながら会を運営していこうとする姿には毎回頭が下がる。それぞれが経験を積みながら企画・運営のノウハウを身に付け、自分達で工夫しながら会を進行していく姿は実に頼もしい限りである。

イベントに参加する一般の利用者（子ども達）らは、こどもクラブを含むスタッフ全員が着用している緑のTシャツに憧れを抱いているようにも感じ、お兄さん・お姉さんが活躍する姿が後進に確実に影響をしていると思う。

（課題と対応）

校区外からこどもクラブに姉妹で参加してくれていた6年生女子が今年度でクラブを卒業する。彼女がリーダー的存在だったことで、他の6年生男女らが非常に影響を受け、熱心に活動をしてくれていたように思う。下学年のメンバーを引っ張ってくれた頼もしい6年生達だったが、彼らが卒業し新たに4年生の新メンバー6名を迎えて再出発する来年度。新6年生になる3名、この1年でこどもクラブの柱になりつつある新5年生らが、新しいメンバー6名を温かく迎え入れ、皆で協力し合いさらなる成長をしてほしい。フレッシュなこどもクラブの活動を職員皆で支え、共に楽しく健やかな児童館運営を目指していきたいと思う。

4　子育て家庭の支援

①　ひよこ広場（毎週水曜日１０時３０分～）

（自己評価）

昨年度までの常連であった親子が4月以降も多く参加してくれた。ひよこ広場を通して親子で仲良くなり、母親同士で情報交換をしながら、友達同士で仲良く遊ぶ子ども達を見守る姿が多く見られた。新規参加者がいた場合は、常連で顔なじみ同士の母親達の中で疎外感を感じないよう、職員が間に入って仲を取り持ち、一人一人が楽しめるような雰囲気作りに努めた。ひよこ広場への参加をきっかけに、イベント以外の通常利用に繋がる親子も多くいた。また、参加する親子は他の支援センター等にも足を運んでいるが、コロナ禍において混雑を避けたい親子にとっては、児童館の広さや程よい来館者数は安心材料になっていることを感じている。

（課題と対応）

今年度まで常連として参加してくれていた子たちの大半が春から保育園・幼稚園に入園することが決まっている。新年度からは顔ぶれも年齢も大きく変わることと思う。参加者の月齢や様子を見つつ、親子のニーズにしっかりと耳を傾けながら内容に柔軟性

を持たせていきたい。また、未就園児対象行事は平日の午前中に開催出来ているが、入園後の園児が参加出来る行事は周年祭やハロウィンパーティー、クリスマス会等のイベントに限られている。定例行事のひよこ広場（水曜午前）の延長的な園児親子向け行事への期待も聞かれているので、土日午前中の開催を考えていきたい。

②　育児イベント（毎月１回）

（自己評価）

今年度は亀田地区公民館共催の家庭教育講演会として、県立大学教授の齋藤裕先生による「入園前の心構えについて」のお話しと、ファーストシューズ選びはじめ子どもの靴選びについて、西区で靴店を経営し、全国各地で講演会を行っているシューフィッター山田宏大さんをそれぞれお迎えした。いずれの講演会も大変好評で、とりわけ山田宏大さんの靴の選び方については、6歳までの靴選びの重要性について詳しくお話しいただいた。靴選びや靴の買い替え、爪の切り方や靴下に至るまで、正しい選択の有無により、身体的症状や性格にも影響するとの内容に、参加した母親から終始ため息が漏れ、皆真剣な眼差しで聞き入っていた。

亀田地区公民館との共催行事は、乳幼児親子の日常に直接寄り添える内容の講座が多く、公民館との繋がりは非常に有難く、感謝している。

（課題と対応）

ＢＰ講座の取り組みと乳児対象の育児イベントの連動は継続し、それらを通じて、新たにひよこ広場や園児対象のイベントへの参加など、子ども達の成長に合わせて長く児童館を利用してもらえるような体制を整えていきたい。また、4年度に立ち上げた「おひるねアート」「サイズアウト交換会」を継続し、育児イベントの目玉の一つとなるよう発信していく。

5年度より亀田地区公民館の年度予算改定により、児童館との共催行事が見送られることとなった。非常に残念ではあるが、公民館に情報提供の協力をいただけるとのこと。亀田地区公民館はじめ各公民館や地域と繋がりをより大切にし、利用者のニーズに応えていきたい。

③　ＢＰプログラム“赤ちゃんがきた！”親子の絆づくりプログラム

（(1) 中止 (2) 9/2・9・13・30 (3) 11/25・12/2・9・13 (4) 2/24・3/3・10・14）

（自己評価）

ＢＰ講座は第一子の育児をする母親のための「仲間づくり・親子の絆づくり・少し先を見通した育児の知識の学習」を目的とするプログラムであり、昨年自主事業として立ち上げ2年目を迎えた。全4クールのうち第1，2クールは江南区在住の母子を対象に募集したが、定員に満たず開催に至らなかったり、人数が少なく講座としてのカウントとされなかったりしたことを受け、第3クールからは江南区在住の壁を外して募集をした。また、区の協力で股関節健診に訪れた母子にもチラシ配布を行う等、広く周知に努めた甲斐あってか、第3,4クール共にキャンセル待ちが出る程の申込みがあった。
いずれのクールも自然といいグループが出来上がり、母親達は情報交換や意見交換を行い、とても有意義な時間となっていた。また、講座終了後に互いの連絡先を交換し、親しくなっている様子も見られ、その後開催した育児イベントにも誘い合って参加してく

れていた。講座を通じて得た仲間達・ファシリテーター・職員・児童館との出会いや学びを以って、豊かで楽しい育児に繋げていってほしい。

（課題と対応）

募集の際には区報掲載や股関節健診でＰＲをしていただく等、行政の協力も引き続きお願いし連携を続けていきたいと考えている。また、口コミでの参加もあるので、来館者に対象母子がいないかリサーチをし、参加への声がけをしていきたい。

また、親子が安心して児童館の講座に参加してもらえるよう、ファシリテーターとの「報連相」も心掛けていきたい。講座終了後も児童館を利用したいと思ってもらえるような雰囲気作りや児童館の紹介も重要だと思っている。さらに、講座参加者以外に来館した利用者にも不便や迷惑を感じさせないよう、環境設定の配慮をしていきたい。

5　その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度の亀田東児童館運営協議会は、第25回を6月28日（月）に開催。亀田東小学校長、亀田中学校長、亀田東小学校区コミュニティ協議会代表、江南区社会福祉協議会、指導保育士、保護司、学識経験者、計7名の委員の皆様。令和4年度の収支報告、令和4年2月～5月までの利用者推移と活動報告、今年度の活動予定について報告し、委員の方々からご意見を頂いた。

第26回は2月15日（水）に開催。前回ご欠席だった運営協議会会長、主任児童委員も加わり、計9名の委員の皆さんにご出席いただき、令和4年6月～令和5年1月までの利用者推移と活動報告、令和5年度の活動計画を報告した。

今後も地域で必要とされる児童館となれるよう、運営協議委員の方々と協力・連携を取り合い、児童館の存在意義を高めていきたい。

総括・評価

今年度も新型コロナや大雪による影響でイベントの中止を余儀なくされた。しかし、そんな中でも利用者の声により開催が実現したイベントがいくつかあった。いずれも大変好評で、そこから児童館周知に繋がり、利用者同士の交流が生まれている。知恵をしぼり、地域との連携をしっかり取りながら新たな事業を展開することが出来た。

コロナによる臨時休館はなかったものの、昨年と比べ小学生の来館が減少している。理由としては、コロナの収束の兆しが見えず、学級閉鎖などが相次いだことや外出自粛が習慣化したことにもあると思われる。また、2年生までほぼ毎日来ていた子ども達が自転車教室をきっかけに行動範囲が広がったのか、あるいはそれぞれ習い事が増えたり、友達の家へ遊びに行くなどして、児童館へ来る機会が減ってしまったことも理由に挙げられる。また、ひまわりクラブに入る児童も年々増加傾向にあることも全体の減少に影響しているものと思われる。

マスク着用が自己判断になり、コロナが5類に引き下げられることを受け、来館の足がさらに戻ってくることを期待したい。また、コロナ対策のために片付けていた自由工作コーナー他、おもちゃ等も少しずつ以前の形に戻し、来館者に最善のものを提供できるよう、感染対策を十分に行いながらいつでも笑顔の絶えない児童館運営を行っていきたい。

亀田東児童館は縦のつながりがとても自然で、年齢関係なく顔なじみになっている。初来館の子ども達、親子、他校区の子や異学年であっても、常連の親子や子ども達が声

をかけ合い、自然と交流している姿をよく見かける。そのお陰もあってか、児童館を楽しみにして来た時と同じ表情で帰っていただくということが容易に出来ているように思う。私達職員はその橋渡しをしながら、今後も利用者が求める児童館の有り様を追求し還元していきたいと考えている。その中で一人一人が成長出来ていることが嬉しく、この異年齢交流こそが亀田東児童館の最大の強みだと感じている。また、地域あっての児童館ということを忘れず、地域の方々と連携を取りながら、子ども達の健全育成を見守り、より楽しい遊びやイベントを提供していきたい。また、そのための研鑽を日頃から積んでいきたいと思う。コロナ禍で減少した移動児童館についても、積極的にＰＲをし、必要とされる地域場所へと積極的に足を運び、新たな地域との結びつきも生み出していきたいと考えている。